

(商法)

第1問

Aは、甲株式会社の代表取締役であり、BおよびCは、甲会社の取締役である。Bは、Aの息子、CはBの妻であるが、いずれも、実際には経営にほとんど関与しておらず、Aがいわゆるワンマン経営者として業務を執行している。なお、Bは甲会社から報酬を受けているが、Cは無報酬である。Dは、甲会社の取締役を辞任した者であるが、いまだ辞任登記がなされておらず、登記上は甲会社の取締役である。

Aの放漫経営により損害を被った甲会社の債権者Xが、B、CおよびDに対して損害賠償を求めることができるかについて、それぞれに対する請求の根拠と、B、CおよびDの考えられる反論を挙げ、自己の見解を論じなさい。
(配点：60点)

第2問

法人格否認の法理について論じなさい。
(配点：40点)